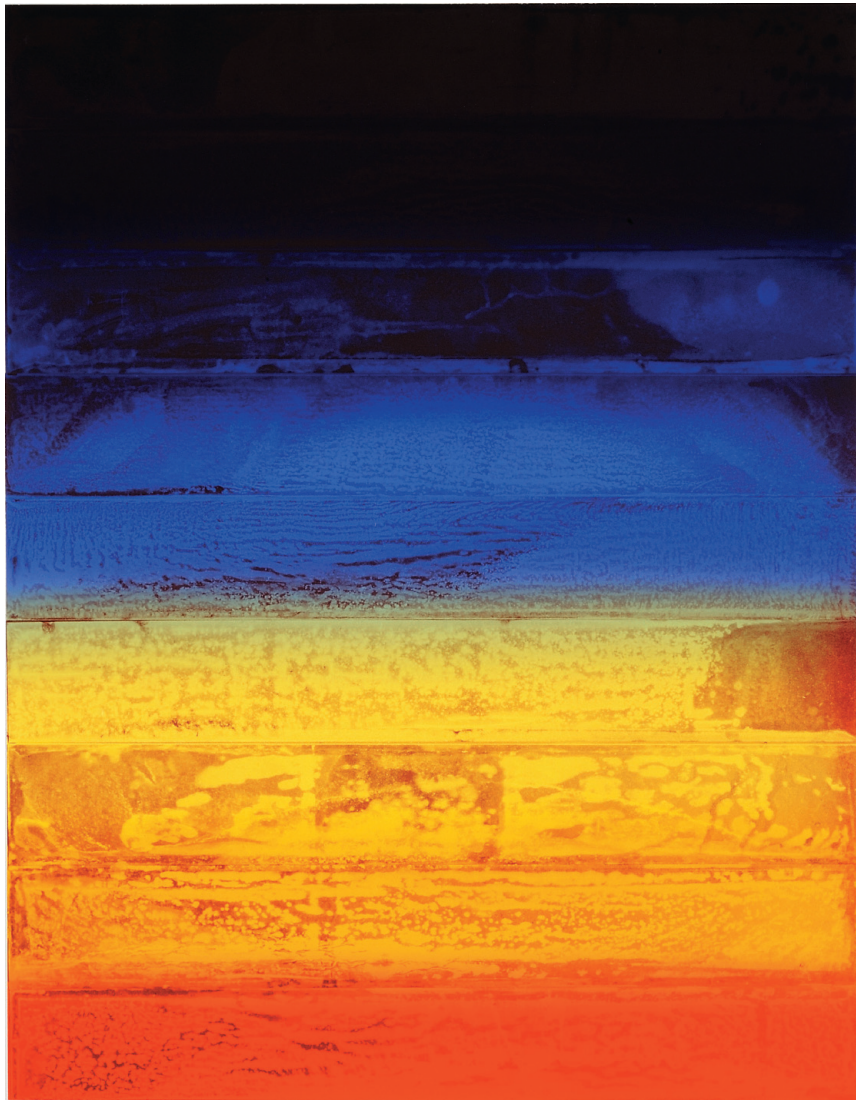


MARUSEN

SPORTS & CULTURE

NO. 6

平成21年度



財団法人
マルセンスポーツ・文化振興財団

CONTENTS

ごあいさつ	1
財団法人の概要	2
役員・評議員名簿	3
平成21年度事業報告	4
第1章 助成事業関係	
1 スポーツ活動に対する助成	4
2 文化活動に対する助成	5
第2章 表彰事業関係	
1 マルセン大賞	6
2 マルセンスポーツ賞	6
マルセン文化賞	7
第3章 イベントの開催	
1 スポーツ関係	8
2 文化関係	8
3 論文要旨	9
第4章 スポーツ・文化に関する広報・啓発事業	
1 ホームページの管理	10
2 機関誌の発刊・その他	10
第5章 ホットコーナー	
・都道府県女子駅伝 岡山悲願の初V	11
・注目される文学の翻訳者	13
第6章 贈呈式	15
お知らせ	
第25回国民文化祭・おかやま2010	16
第7章 受賞者からのひとこと	
1 マルセン大賞	17
2 マルセンスポーツ賞	18
マルセン文化賞	22
資 料	
1 事業の記録	25
2 平成20年度収支決算書	28

表紙写真：タイトル：Atomosphere:Window DⅡ
裏表紙写真：タイトル：Atomosphere:Window AⅠ
技法：シルクスクリーン
制作年：2009年
作者：高原 洋一

ごあいさつ

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、岡山県のスポーツ・文化の振興発展と県民の皆さまが健康で豊かな心をもって生活できる環境・社会の実現を願い平成16年2月に設立され、お陰さまをもちまして6年目を迎えることが出来ました。このことは、皆様方の温かいお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

さて、昨年8月には、国政選挙がおこなわれ、その結果、政権交代があり自民党政権から民主党政権へ新しい動きが起きました。また、国内では、一昨年世界的な大不況の影響から脱却できずデフレ状態が続き経済の閉塞感が否めない事態が続いております。

このような中、7月にスポーツ・文化活動に少しでもお役に立てますよう活動助成事業や表彰事業を行いました。さらに10月には「スポーツ・文化の振興について」の論文募集や「マルセン少年バレーボール教室」開催、優れた美術作品の鑑賞等々のイベントの開催を通して、微力ながらも県民の皆さまに少しでも明るく元気にお過ごしいただけるよう応援させていただいています。

このたび、活動の記録として、「マルセン」第6号の発刊の運びとなりました。どうぞご高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。ご協力を賜りました関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団

理事長 千原 多美子

財団法人の概要

I 概 要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで岡山県教育委員会の許可を得て設立されました。

当財団は、寄附行為第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を図るとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現」と規定し、その目的達成のため次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
- 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
- 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
- 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
- 5 その他目的を達成するために必要な事業を定め活動しています。

II 沿 革

平成16年 2月27日	財団設立。岡山市富町(現北区富町)二丁目4番4号に事務所を設置
平成16年 3月26日	初代理事長に千原多美子就任
平成16年12月14日	第1回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成16年12月23日	第1回スポーツイベント協賛 第23回山陽女子ロードレース大会
平成17年 2月28日	晴れの国おかやま国体へ助成
平成17年 3月11日	第1回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成17年 7月14日	晴れの国おかやま国体への助成(2回目)
平成17年 8月 3日	第2回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 1月13日	財団のロゴマークの選考・決定
平成18年 4月 1日	公益法人指導監督担当課の変更により岡山県教育委員会から岡山県知事所管となる
平成18年 7月21日	第3回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 8月 4日	コミュニティライブラリーの設置(岡山市駅前・旧岡山会館1階) 「晴れの国おかやま国体写真展 あの感動をもう一度!」 表彰者紹介コーナー・映像コーナーの設置
平成18年11月 3日	川島 基ピアノリサイタルの開催
平成19年 7月24日	第4回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成19年11月 2日	第19回全国生涯学習フェスティバル[まなびピア2007]「生涯学習見本市」に出展
平成20年 3月 8日	マルセン少年サッカー教室の開催(岡山湯郷Belle)
平成20年 7月29日	第5回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成20年11月 9日	岡山県生涯学習フェスティバル2008「マルセンバルーンアート教室」の開催
平成20年12月 1日	新公益法人制度(改革3法)施行により「特例民法法人」となる
平成21年 2月25日	「マルセン写真コンテスト入選作品展」岡山天満屋地下タウン「アートスペース」において開催(3月2日まで)
平成21年 3月 8日	「マルセン少年陸上競技教室」の開催
平成21年 7月17日	岡山市北区駅前町一丁目2番4号へ事務所を移転。
平成21年 7月27日	第6回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成21年 8月 6日	「マルセン写真コンテスト入賞絵はがき」のプレゼント
平成21年10月18日	マルセン少年バレーボール教室の開催(岡山シーガルズ)
平成22年 1月13日	「スポーツ・文化の振興についての論文」入賞者表彰式の開催
平成22年 3月 5日	「悠久への回帰 高橋秀 展」チケットプレゼントの実施

役員・評議員名簿

平成21年7月1日現在

役員名簿

役 職 名	氏 名	会 社 名
理 事 長	千 原 多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千 原 秀 則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理 事	伊 東 香 織	倉敷市長
//	加 計 孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
//	川 崎 誠 治	学校法人 川崎学園 副理事長
//	越 宗 孝 昌	(株)山陽新聞社 代表取締役社長
//	高 谷 茂 男	岡山市長
//	吉 岡 洋 介	(財)ワコーススポーツ・文化振興財団 理事長
//	千 原 行 喜	(株)成通 代表取締役社長
監 事	衣 笠 和 孜	岡山療護センター センター長
//	信 朝 寛	元岡山県審議監

五十音順 敬称略

評議員名簿

役 職 名	氏 名	会 社 名
評 議 員	馬 越 績	馬越績税理士事務所 所長
//	大 田 弘 之	テレビせとうち(株) 代表取締役社長
//	北 尾 好 昭	(株)瀬戸内海放送 取締役執行役員
//	中 川 洋 一	西日本放送株式会社 岡山本社 中国総支社 支社長
//	平 松 掟	平松弁護士事務所 (元日本弁護士連合会副会長)
//	藤 井 邦 昭	岡山ネットワーク株式会社 代表取締役社長
//	藤 原 隆 昭	山陽放送(株) 代表取締役社長
//	松 岡 俊 郎	岡山エフエム放送(株) 代表取締役社長
//	宮 内 正 喜	岡山放送(株) 代表取締役社長
//	藤 田 土 義	(有)ミスター・メンテナンス 代表取締役社長

五十音順 敬称略

平成21年度 事業報告

第1章 助成事業関係

岡山県において、スポーツ・文化の振興及び発展に寄与するための諸活動に助成を行いました。

1 スポーツ活動に対する助成(応募総数/19件 採用件数/10件)

番号	団 体 名	活 動 名	活 動 目 的
1	岡山県青年団協議会	第57回岡山県青年祭 兼第58回全国青年大会岡山県予選会	競技力の向上と交流による真に豊かな地域 社会の創造
2	岡山県ダブルダッチ 協会	第4回ダブルダッチ チャレンジ in 岡山	ダブルダッチ講習会及び競技会の開催 ○講習会・ビギナークラス・経験者クラス ○競技会・ビギナーの部・デモンストレーション
3	岡山県中学校女子バレー ボール冬季合同練習会	岡山県中学校女子バレー ボール冬季合同練習会	バレーボール競技力の向上
4	岡山県パワーリフテ ィング協会	第17回岡山県ベンチ プレス大会	パワーリフティング競技の普及
5	岡山桃太郎	身体障害者野球	身体障害者が野球を通じて心身の健康を維 持増進し競技レベルを向上させるため
6	北川スポーツ少年団	ソフトボール	体力・技術の向上、仲間づくりと礼儀を重んず る心を育てる
7	実戦空手 修士館	第4回修士館ジュニア オープントーナメント	子どもたちの育成のため
8	シャイニィ瀬戸内 V.B.C.	シャイニィ瀬戸内 V.B.C.定期練習活動	バレーボール競技力の向上
9	TEAM大澤 修斗クラブ	アマチュア修斗、ブラジリ アン柔術、グラップリング	格闘技稽古を通して健康の増進のみならず、 各々の目的に応じて励むことで充実した日々 を獲得し、人格陶冶をはかることを最高目的 とする。
10	津山ヤングマスターズ	少年軟式野球	小学生(男女)を対象に、野球を通じてスポー ツマンシップを学び、心身の健康と体力の増 進を図るとともに、豊かな人間性と社会性を 育み、次代を担う少年少女の健全育成を図る ことを目的とする。

2 文化活動に対する助成(応募総数 /42件 採用件数/14件)

番号	団 体 名	活 動 名	活 動 目 的
1	アンサンブルFlug	出井紗希子&木村善明ファーストデュオリサイタル。ドイツからのメッセージ打楽器と歌のコラボレーション in 宝福寺2009	お寺という特別な空間の中で、ドイツ音楽や現代音楽・世界初演の発表などを演奏し、県民の豊かな心の形成を目指す。
2	NPO法人 バンクオブアーツ岡山	ルネスホールオペラ振興事業Vol.2「カヴァレリア・ルスティカーナ」	岡山出身のアーティストによるオペラ。県民へ良質な芸術を気軽に楽しんでもらう。
3	おかやまキッズアート展実行委員会	第2回おかやまキッズアート展	幼児・児童・生徒の創造性豊かな人間形成を美術活動を通し目指す。
4	岡山県天神山文化プラザ	戯曲を読む ドラマ・リーディング	演劇経験のない方でも参加できる。演劇を身近に楽しみ、県内の演出家・役者によるドラマ・リーディングを開催することで岡山の演劇文化の可能性を広げていきたい。
5	岡山県読書推進運動協議会	一日こども図書館フェスティバル in しょうおう	読書に関わる様々な活動を地域一体となって実施することで、子どもたちに本に親しむ機会を提供したり、読書に対する興味を喚起したりするとともに地域における図書館文化の振興を図る。
6	岡山県博物館友の会	岡山・島根交流展ボランティアガイド	岡山県と島根県は、特徴ある地域文化を形成するとともに様々な交流も生まれてきた。現代も連携の強化が求められている。このたび岡山・島根の両県立博物館が連携し協働の展覧会が3年計画で実施される。それに合わせ、展覧会のボランティアガイドを実施し両県の交流の促進を図る。
7	「岡山写真界の記録」実行委員会	「岡山写真界の記録」～四季日本写真展	日本の良さを再確認し、写真・詩・書と三芸術のコラボレーションを楽しむ。
8	財団法人 岡山県備前陶芸美術館	平成21年度特別展「備前の細工物―桃山から昭和初期までの流れと歴史―」	備前焼の普及と振興を図り、地域文化の向上に寄与する。
9	デジタル岡山グランプリ実行委員会	映像コンテスト「第4回デジタル岡山グランプリ」	映像クリエイターの育成、生涯学習活動(作品制作・鑑賞)の機会提供。
10	新野まつり保存会	伝統芸能文化保存運動	岡山県重要無形文化財指定の「新野まつり」を継続保存する。
11	藤原 洋次郎	日本-韓国 ハンカチアートプロジェクト	ハンカチで未来をつなぐ国際交流
12	ブラックシアター きらら	ブラックライトを使った人形劇公演	多くの方・子どもたちに生のブラックシアターの感動を届けたい。
13	マイスター飛躍塾	感動の講演集録	人生の先達として、高齢者が次の世代に高齢者文化を語り継ぐという使命感を持った講演要旨の集録集の発行。
14	「わくわく子どもまつりin岡山ドーム」実行委員会	わくわく子どもまつりin岡山ドーム	子どもの体験活動を広げるとともに子育てを支援する。

3 指定寄付 第25回 国民文化祭 おかやま2010 助成金 100万円

1 マルセン大賞

平成20年度スポーツ・文化活動において国際大会・全国大会等で、特に優秀な成績・業績を収めた個人または団体を表彰しました。

【マルセン文化大賞】(副賞／100万円)

●高原 洋一 【美術 洋画 版画】

高原洋一氏は、主としてシルクスクリーン版画を通じて国内外で作品を発表し続けているベテラン実力派であり、作品は大英博物館・京都国立近代美術館をはじめパブリックコレクションも多い。

平成20年秋に「風景のメタモルフォーシス」と題して、岡山市デジタルミュージアム(生成するイメージ一大地と水、9/13～10/13)倉敷市立美術館(火と水をめぐって/共鳴する美術2008 9/19～11/3)及び奈義町現代美術館(一移りゆく自然と表層性、9/6～10/13)の3館同時展開という県内初の画期的な試みは、これまでの回顧展に加え新たな展開の出発点であり、極めて意義深く、多くの人々に感動を与えた。

※マルセンスポーツ大賞の該当者なし

2 マルセン賞

平成20年度スポーツ・文化活動において優秀な成績あるいはスポーツ・文化の振興に貢献した個人または団体を表彰。

【マルセンスポーツ賞】(副賞／30万円)

●岡山県作陽高等学校 ゴルフ部 【ゴルフ競技】

創部3年目にして、全国高校ゴルフ選手権大会女子団体の部(8月3～6日 栃木県琵琶池ゴルフ倶楽部)において、初優勝。全国の地区大会を勝ち抜いて出場した17チームで行われた同大会で、2位に4打差で優勝、全国一の栄冠に輝く。岡山県勢女子では中国地方初、男女を通じ岡山県勢として初の団体優勝。その他県大会、中国大会においても団体・個人ともに優勝するなど岡山の名を高めた。

●木村 禎宏 【車いすテニス競技】

木村選手は20歳のとき、交通事故で頸髄を損傷し両脚の機能を失い車いすの生活となる。28歳から車いすテニスを始め「練習の虫」と評されるほどの特訓を重ね、頭角を現し国内外で数多くの優勝を飾っていた。現在、車いすテニス クアードの部 世界ランキング18位(2008.11現在)。

障害者スポーツの最高峰であるパラリンピックを目指して本格的に取り組み2007年の広島ピースカップやシドニーインターナショナルでの優勝などの実績が認められ、重度の障害を持つ選手が出場する車いすテニス クアードの部日本代表に選出された。北京では、日本選手団の永年の念願であった日本人初の入賞を果たした。木村選手の仕事と競技を両立させてこの活躍は、障害者はもとより多くの人々に勇気と希望を与えることとなり、仕事にも積極的に取り組むなど社会人としての意識向上を心がけて、他の障害者のお手本となっている。

●山陽女子高等学校 体操部 【体操競技】

46年ぶり2度目の優勝を成し遂げた。

昭和27年創部の伝統校。自由演技で、技の完成度(Bスコア)を着実に稼ぎ、ハイレベルな技を組み込んでくるライバル校を抑え、前日の規定演技3位からの逆転優勝を果たした。「美しい体操」を目標に、普段からこつこつと練習していた努力の賜物。目に見えないその努力が、大きな感動を呼んだ。岡山県女子体操競技のレベルの高さを全国に向けて発信した功績は大きなものがある。

●平林金属 男子ソフトボールクラブ 【ソフトボール競技】

平成20年度 「第37回日本男子ソフトボールリーグ」 初優勝

平成20年度 「第54回全日本総合男子ソフトボール選手権大会」 第3位

になるなど岡山県のソフトボール競技の力を全国にとどろかせた。また、小・中・高校生へのソフトボールの指導を行うなど競技の普及に尽力しておりその姿勢は、他チームの模範である。

※日本男子リーグは、全日本の男子トップリーグチーム(18チーム)により、全国を東西に分け、1年を通じてリーグ戦を行い、東西リーグの上位各4チームによる決勝トーナメント戦により優勝を争う。

【マルセン文化賞】(副賞／30万円)

●大島の傘踊り保存会 [無形民俗文化財 伝統芸能]

当団体は、傘踊りの保存普及と後継者の養成に力を注いでおり、笠岡市大島地区の小・中学校や公民館で指導を受けた子どもたちは、平成14年に開催された「おかやま子ども郷土芸能フェスティバル」等の全県的なイベントに毎年出演して、練習の成果を存分に発揮している。

また、地域での伝承活動の他、平成18年開催の「中四国ブロック民俗芸能大会(松江市)」、昨年開催の「おかやま子ども民俗芸能大会(倉敷市)」での公演等、毎年数回は、笠岡市内外のイベントで公演しており、日頃の成果を発表するとともに大島の傘踊りを広く知っていただくことに務めるなど、活発な活動を展開し、県内伝統芸能の範となっている。

●片山 康之 [美術 彫刻]

片山康之氏は、倉敷芸術科学大学大学院1回生のとき「日展」に初入選し、その後表現を模索し、昨年二度目の挑戦で、「すべての夜に」が特選になった。陶製の頭部に木彫の胴部、金属を組み合わせている。静ひつな造形が「豊かな感性と彫刻表現の今を感じさせる。」と評価され、今までの日展らしくない作品としても注目された。

昨年は、「第59回岡山県美術展覧会」でも山陽新聞社大賞を受賞しており、今後の岡山彫刻界を背負って立つ人材と考える。

第3章 イベントの開催(協賛)

1 スポーツ

- 第28回全国ママさんバスケットボール交歓大会 岡山大会(協賛)
平成21年8月7日(金)～9日(日)開催 桃太郎アリーナ・岡山市総合文化体育館
- 第2回倉敷国際少年野球大会(協賛)
平成21年8月22日(土)～23日(日)開催 倉敷マスカット球場他
- 第57回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会(協賛)
平成21年9月25日(金)～27日(日)開催 桃太郎スタジアム
- マルセン少年バレーボール教室の開催(第3回岡山シーガルズ杯ジュニアバレーボール大会)
平成21年10月18日(日) 山陽ふれあい公園体育館
参加者／85名 講師／岡山シーガルズの選手の皆さん
- 第28回山陽女子ロードレース大会(協賛)
平成21年12月23日(水・祝)開催 岡山市内

2 文化

- 第5回沙美アートフェスト(協賛)
平成21年5月16日(土)開催 倉敷市沙美海岸 (54作品)
展示会 倉敷市立美術館第1展示室 21年8月25日(火)～30日(日)
- 「朝鮮王朝の絵画と日本」 チケットプレゼント 岡山県立美術館
平成21年6月5日(金)～7月12日(日) 100組 200名 (応募数187件)
- 絵はがきプレゼント(写真コンテスト入賞作品)
150名 (応募数 206件)
- 2009マーチング・イン・オカヤマ(協賛)
平成21年10月11日(日)～12日(祝・月)
- (社)岡山県文化連盟・文化講演会「文化のつどい」(助成)
平成21年9月5日(土)「モネと日本ー睡蓮がつなぐ世界」高階秀爾大原美術館長
平成21年9月12日(土)「古筆の魅力」 島谷弘幸東京国立博物館学芸研究部長
- 「スポーツ・文化の振興」論文募集・入賞者表彰式
平成21年9月1日(火)～10月31日(土)
応募点数 スポーツの部14点、文化の部8点、スポーツ・文化3点 計25点
金賞 該当者無し、銀賞1点、銅賞1点、入選5点、入賞論文要旨は9ページへ
- 「悠久への回帰 高橋秀 展」 チケットプレゼント 岡山県立美術館
平成22年3月5日(金)～4月4日(日) 50組100名 (応募数178件)

「スポーツ・文化の振興」募集論文入賞作品 要旨

銀 賞

「岡山県にスポーツ文化を根付かせるための方策」

新見市 竹本 隆一 (鳥取大学工学部 学生)

私は新見市出身です。新見市といえば男子ソフトボールで新見第一中学校と新見高校が05年と07年にそれぞれ日本一になり、05年の岡山国体で成年女子ソフトボールの会場になるなどソフトボールという競技が大変盛んな地域です。新見市はそのほとんどが山間部の過疎地域で最低9人必要なソフトボールでは人数を揃えるのがやっとという状況の地域が多いです。私も小学生のころ、ソフトボールのチームに参加していましたが、男子だけでは人数が少なく、女子も混じって試合に出るような状況でした。それでも保護者の方々や学校の先生が熱心に世話をしてくださり、大会の会場も賑わっていました。おかげ様で私にとってソフトボールはとても身近な存在となり、高校、大学とソフトボールに関わることになるきっかけをつくってくれました。

新見市は、自他ともに認める「ソフトボールのまち」となっています。市が積極的に大会の誘致を行い、多くのボランティアが運営をサポートします。こうして、市全体でソフトボールの発展に努めていることが日本一の実績につながっているのでしょう。

このような「〇〇のまち」という取り組みを県レベルで実施することもできるはずです。いまひとつスポーツに関して特色のない岡山県にも、誇れるスポーツを生み出したいと考えます。

銅 賞

「岡山県のスポーツの振興について」

倉敷市 山邊 信義 (団体職員)

岡山県のスポーツの振興を図るために、次の2点を挙げたいと思います。

一つ目は、シンボリック的存在であるプロスポーツチーム(ファジアーノ岡山)を頂点とする支援体制の確立です。スポーツの支援には三位一体(行政・財界・市民)での支援が必要であり、特に行政・財界は一層の支援体制を強化すべきと考えます。市民もスポーツ文化を支援するムーブメントを起こさなければなりません。市民運動が高揚すれば、行政・財界も注目して活動を支持するでしょうから。

二つ目は、総合スポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の普及・推進です。

このスポーツクラブは、多世代、多種目、多志向の特色を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営され、地域の人々の交流の場となるスポーツクラブとしています。

これらが実現できれば、岡山にはきっと素晴らしいスポーツ文化が花開くものと思われます。

第4章 スポーツ・文化に関する広報、啓発事業

1 ホームページの管理



2 機関誌 「マルセン」6号の発刊

3 その他 岡山県体育協会のホームページにバーナー広告の掲載



都道府県女子駅伝 岡山悲願の初V チーム一丸会心の走り 長年の連携強化結実



皇后杯を囲み、喜びにあふれる岡山県チームの選手ら＝京都市体育館

大歓声と拍手が飛び交う西京極陸上競技場(京都市)。誰もが待ち望んでいたそのときがやって来た。1月17日、第28回全国都道府県対抗女子駅伝。アンカーのエース中村友梨香(天満屋)が右手の人差し指を突き上げ、栄光のゴールテープを切る。岡山が悲願の初優勝を飾った。

「一人一人が自分に与えられた役割通りの走りをしてくれた」と就任2年目の山口衛里監督(同)。2000年シドニー五輪マラソン7位の指揮官は選手の手で何度も宙に舞った。昨年12月の全日本実業団駅伝2位の天満屋と全国高校駅伝3位の興譲館高が柱のチーム。強力布陣が真価を発揮した。

11位でたすきを受けた2区浦田佳小里(同)が8人抜き之力走で首位戦線に躍り出ると、5区菅華都紀(興譲館高)でトップに。続く6区赤松真弘(同)の区間新で2位以下を大きく突き放した。北京五輪マラソン代表の中村に先頭でたすきが渡った時点で勝負は決まったも同然だった。

山田千花(琴浦中)ら中学生2人も奮闘。大会史上初の6連覇を狙った優勝候補の筆頭・京都が要所で失速したのに対し、岡山は各世代の力ががっちりとかみ合った。9区間42・195^{キロ}、県勢過去最高の2時間16分24秒のタイムが会心のレースを如実に物語る。



1区小原怜(右)から、たすきを受ける
2区浦田佳小里＝第1中継所

「山口監督に皇后杯をプレゼントしたい」。大会前にそう意気込んでいたのは栄冠への流れを確かなものにした赤松だ。今大会から初めて優勝チームに授与された皇后杯に懸ける熱意は選手全員に共通していた。新春の都大路の推進力を生んだのはそれだけではない。天満屋、興譲館高勢には昨年12月にあったそれぞれの全国大会で日本一にあと一步届かなかった悔しさがあった。都道府県駅伝は、まさにリベンジの舞台だったのだ。

振り返れば1983年の第1回大会は45位、第2回大会46位。その後も30位台が岡山の指定席だった。「岡山代表として走るからには期待に応えてほしい」。岡山陸上競技協会などには一般市民からそんな投書が寄せられたこともあった。

新しい風が吹き始めたのは92年に天満屋女子陸上部が誕生してからだ。成績は徐々に上がり、10位台へステップアップ。さらに99年には興譲館高女子陸上部が発足。両チームが国内屈指の強豪へ成長を遂げる中、都道府県駅伝でも躍進する。05年の5位を皮切りに07年からは3年連続の表彰台(2、3、2位)。そして今年ついに頂点へと駆け上がった。

レース後、喜びに沸くメンバーの傍らで岡山チームの前監督、藤井健平さん＝岡山県保健体育課長＝は感慨に浸った。「この日が来ると信じていた。まいた種が実った」。藤井さんの呼びかけで各年代の指導者が手を携えて実業団、高校、中学による年数回の合同合宿を始めたのは約10年前。駅伝で欠かせない一体感を養うと同時に、頼もしい「お姉さんたち」に引っ張られるように次代を担う中学生が力をつけた。栄冠の陰には「岡山を強くしたい」一心で結束した関係者の地道な取り組みがあった。

岡山女子長距離界に新たな歴史を刻む快挙。皇后杯を囲む選手たちの笑顔が輝く。だが、その視線は既に次を見据えている。4区を走った主将の泉有花(天満屋)は言う。「勝ったことでもっと強くなりたいという気持ちかわいてきた」

都道府県駅伝の余韻がまだ残る1月24日、選抜女子駅伝北九州大会で天満屋は一般の部を15年ぶりに制し、興譲館高は高校の部で初優勝。全国から一目置かれる存在となった「駅伝王国岡山」が、都大路2連覇への第一歩を力強く踏み出した。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



笑顔で初優勝のゴールに飛び込む
アンカー中村友梨香＝西京極陸上競技場

ホットコーナー

注目される文学の翻訳者

森田思軒、阿部知二、延原謙、米川正夫…
岡山関係者も重要な足跡

故人では、阿部知二、安東次男、内田百閒、近松秋江、西東三鬼、薄田泣菫、永瀬清子、藤原審爾、柴田錬三郎、住宅顕信、木山捷平、坪田譲治、正宗白鳥、吉行淳之介ら、現存作家では、小川洋子、重松清、あさのあつこ、岩井志麻子、小手鞠るい、原田宗典、マハの兄妹、飯島耕一ら、岡山県から多くの小説家や詩人らを輩出したのは有名だ。一方で、意外に知られていないが、翻訳の世界でも重要な業績を残した岡山県関係者は多い。近年、亀山郁夫氏によるドストエフスキー「カラマゾフの兄弟」、若島正氏のナボコフ「ロリータ」、村上春樹氏のサリンジャー「キャッチャー・イン・ザ・ライ」など新訳が評判を呼ぶ中、こうした文学の翻訳家にも注目が集まっている。

2003年、吉備路文学館（岡山市北区南方）で開かれた笠岡市生まれの森田思軒の回顧展「明治の翻訳王 森田思軒展」と、併催の「吉備路の作家による翻訳本展」は先見の明のある企画だった。特に後者は、思軒以後の岡山、広島県東部ゆかりの28人もの翻訳の業績を紹介、「こんなにも豊かな世界があったのか」と人々を驚かせた。

森田思軒（1861～97年）は、慶応義塾で英語や漢学を学び、郵便報知新聞社に入社。英、仏などを歴訪した見聞記で評判を高めた。翻訳家を目指したきっかけは不明だが、政治家も志した思軒はこの時、英訳された西洋文学を読み、ビクトル・ユゴーの人道主義に心酔したためとされる。1886年から紙上で翻訳小説欄を担当し、連載を始めてヒット。発表の場を移しながら死去までの10年余で、ユゴーの「探偵ユーベル」など40作以上を訳した。ユゴーの訳は思軒が最初ではなかったが、思軒以前の翻訳は文章を乱暴に縮めたり、粗筋だけを訳す例が多かったのに対し、逐語訳を定着させたのが大きな功績。また、SFの元祖と言われるジュール・ベルヌの「十五少年（漂流記）」は、当時随一の漢文の書き手であった思軒の力強い文章と、講談とはひと味違う冒険物語が当時の青少年の心をつかみ、大ベストセラーになった。

ただ、思軒の翻訳は、英訳された仏文学作品を翻訳したもの（重訳）だったことや、文語体を使ったため、思軒の登場と相前後して起きた二葉亭四迷らの言文一致体運動により、古びてしまい、歴史に埋もれてきた。だが、2005年には、自らも翻訳者である鴻巣友季子氏の「明治大正翻訳ワンダーランド」（新潮新書）で取り上げられ、「森田思軒とその交友」（松柏社）が発刊されるなど再評価が一気に進んだ。

「吉備路の作家による翻訳本展」では、阿部知二のメルビル「白鯨」、詩人安東次男のサガン「悲しみよこんにちは」、自然主義文学者正宗白鳥のホメロス「イリアッド物語」、仏文学者太宰庵門の「バルザック全集」、歌人の尾上柴舟の「ハイネの詩」、小説家吉行淳之介のヘンリー・ミラー「愛と笑いの夜」など多彩な顔ぶれが並んだ。特に、エラリー・クイーンの「Yの悲劇」などを翻訳した妹尾アキ夫、コナン・ドイルのホームズシリーズを日本で最初に全訳した延原謙とミステリー界で活躍した翻訳家の仕事は、地元岡山でほとんど顕彰されていなかっただけに注目された。残念なことに、同展では、翻訳を手掛けた小説家はともかく、「裏方」として翻訳を主にしてきた人々の経歴や仕事の全体像まではふれていなかった。

そうした「もっと知りたい」との思いに応える地味だが意義ある本が、昨年12月に刊行された。「翻訳家列伝101」（小谷野敦編著、新書館）。明治から現在までの101人を取り上げて訳業や経歴を詳しく紹介した画期的な仕事で、森田思軒をはじめ岡山関係者が存在感を放ち、貴重な情報も多い。

例えば、延原謙(1892～1977年)。ここでは取り上げられていないが妹尾アキ夫と同年。京都市生まれだが、母親は謙を郷里の津山に連れ帰り、自宅に女学校を開くが、県立津山高等女学校ができたため閉じ、謙と共に上京した。謙は早稲田大理工学部を卒業後、会社員の傍ら探偵小説を翻訳した。再婚相手は岸田国土の妹。倉敷市に疎開経験のある横溝正史の後任として雑誌「新青年」、新雑誌「朝日」の編集長を務めた。1938年に中国大陆に渡り、映画館を経営したというから生き方もずいぶん面白い。ホームズの翻訳は平かなが多いのが特色という。

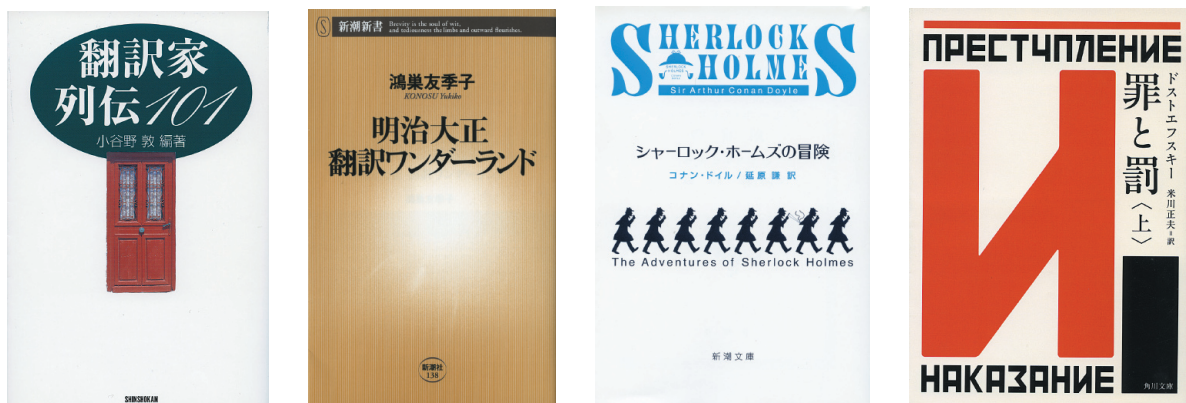
小説家から翻訳家に転身、メルビルの「モビー・ディック」を初めて「白鯨」と訳したのは、美作市生まれの阿部知二(1903～73年)。モーム「月と六ペンス」、オースティン「エマ」など数々の翻訳を手掛けた。「戦後しばらく谷崎(潤一郎)の秘書的な働きをしていたことはあまり知られていない」という指摘は興味深い。

ロシア文学では、高梁市出身の米川正夫(1891～1965年)。文体にある一種の癖が魅力であり、「数々のドストエフスキーの新訳は、米川に与えられた口調からの脱出、ドストエフスキーというより米川正夫への挑戦になっている」との評。新訳による昨今のドストエフスキーブームの中、再評価されるべき人物だろう。

このほか、現役では、芥川賞作家・金原ひとみの父で、ヤングアダルト小説の分野で旺盛な仕事を展開する金原瑞人氏は有名だが、ガルシア＝マルケスの「百年の孤独」をはじめボルヘス、バルガス＝リョサラテンアメリカ文学で知られる鼓直氏が岡山県生まれというのもうれしい驚きだろう。

正確でなくても美しい訳文や誤訳も含めて、翻訳を通して文学の世界へ導かれた人は多いはず。翻訳者の苦勞に思いをはせながら、再読してみるのもいいかもしれない。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



写真左より

- 「翻訳家列伝101」
- 「明治大正翻訳ワンダーランド」
- 延原謙訳「シャーロック・ホームズの冒険」(新潮文庫)
- 米川正夫訳「罪と罰」(角川文庫)

第6章 贈呈式

●と き 平成21年7月27日(月) 午前11時より

●ところ ホテルグランヴィア岡山「クリスタル」の間

●式次第 1 開 式

2 あいさつ

3 来賓祝辞

4 表彰状及び副賞贈呈

5 受賞者代表あいさつ

6 助成金交付

7 助成金受領者代表あいさつ

8 閉 式



お知らせ

日本最大の文化の祭典・国民文化祭が岡山にやってきます！

晴れの国おかやま 文化回廊

あっ晴れ!おかやま国文祭

国民文化祭・おかやま2010 平成22年10月30日(土)～11月7日(日)

今年の秋、岡山県内全市町村を舞台に68事業を開催!!

昭和61年から全国持ち回りで開催されている「国民文化祭」は、「文化の国体」とも言われています!全国各地からたくさんのアーティストや文化団体が集まって、日頃の文化活動を発表し、交流を深めます。



国民文化祭・おかやま2010
マスコット ももち



路面電車「ももち号」がPR中



キャンペーンスタッフ
(写真左から)朝井美由紀、齋藤 愛

10/30(土)からの9日間

音楽分野・・・吹奏楽・童謡・マーチング・バントワーリングなど
伝統芸能分野・・・和太鼓・地歌舞伎・盆踊り・神楽・邦楽など
文芸分野・・・俳句・短歌・川柳・漢詩・現代詩
美術分野・・・日本画・洋画・書・写真・陶芸・漫画・絵手紙・刀など
生活分野・・・食文化・茶道・華道・囲碁・将棋・かるた・民話など
さらに、歴史文化・演劇などさまざまなイベントが盛りだくさんです。

◆出演者・観客あわせて100万人を超える日本最大の文化の祭典!◆

国民文化祭の参加団体は2000を超え、観客も、100万人を超える予定です。全国から、岡山にさまざまなジャンルの文化の担い手たちが集まり、岡山県内各地の会場で成果を披露します。全国規模の文化の祭典をどうぞお楽しみください。そして、おもてなしの心で岡山に来られた方々をお迎えいただければ幸いです。



◆みなさんも国民文化祭に作品を発表しませんか?◆

観客としてはもちろん、作品を出展して、国民文化祭に参加しませんか? 現在、『日本画・洋画・書・写真・彫刻・工芸・陶芸』の作品を募集しています。今後も短歌・俳句・川柳・現代詩・漢詩・絵手紙・天体写真・棚田写真の募集が行われます。たくさんのご応募、お待ちしております。

作品募集については・・・第25回国民文化祭岡山県実行委員会事務局
TEL 086-226-7906まで(ホームページにも詳細が載っています。)

〈お問合せ〉第25回国民文化祭岡山県実行委員会事務局 TEL 086-226-7905

ホームページもチェックしてみてください!

あっ晴れ!おかやま国文祭

検索



マルセン文化大賞

マルセン文化大賞を受賞して

高原 洋一

このたびは思いもかけずマルセン文化大賞の貴い賞を受賞し、ありがたく栄誉なことであると同時に賞の重みに身の引き締まる思いをしている。

振り返ってみると制作活動を始めていつも間にか40年近くになってしまった。1972年に3年勤めた大阪の会社を辞し、恐るべき美術という迷宮の世界に無謀にも足を踏み入れた。1970年代の暗中模索、試行錯誤時代、1980年代はコンクール出品の腕試し時代、1990年代からは思うことがあって主に個展で作品発表をしてきた。

私は当初より無所属でこの年まで表現活動をしてきた。そのような位置では比較する基準がなく高い評価を頂くことはなかなか困難なことである。しかし、そんな頑固な制作態度に共鳴し光を当てようとした人達が、驚くような企画展を立ち上げてくれた。それが一昨年の秋、岡山県内の三館（岡山デジタルミュージアム、倉敷市立美術館、奈義町現代美術館）で開催された「高原洋一 風景のメタモルフォーシス」であった。岡山県内初の三館同時期開催の個展に対しての評価によって、マルセン文化大賞のありがたい大きなご褒美を頂いた。

若い時と違い、還暦をとくに過ぎたこの年になると、受賞することによって急に作品の質が向上するとか、飛躍的に技術が上達するということはないと思うが、社会的な責任を帯びることは確かである。この受賞によって大きな励みと勇気を与えられ、背中を押していただいた。これからも日々新たな気持ちで多くのひとの心の中に残る、面白い作品を作っていきたいと思っている。

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団様の圧倒的なメセナ活動に敬意を表し、今後とも変わらないご支援、ご厚情をねがい、心からの御礼と感謝を申し上げたい。





マルセンスポーツ賞

受賞にあたって

岡山県作陽高等学校 ゴルフ部 神田 寿則

この度は、名誉あるマルセンスポーツ賞を受賞させていただき誠にありがとうございました。私たち作陽高校ゴルフ部が全国大会で優勝する事ができたのも私たち作陽高校ゴルフ部を温かく見守って下さり、励ましの言葉をかけて下さった地域の方々、関係各位のご支援、ご指導のおかげと感謝いたしております。今回の受賞を契機としてこの賞に恥じぬよう、より一層精進し頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

作陽高校ゴルフ部は2008年に栃木県で行われました全国高等学校ゴルフ選手権大会女子団体戦で優勝する事ができました。ゴルフはグリーンにいれば自分ひとりで考え戦っていかねばなりません。自分で考え、自分で行動する事が必要であり、刻々と変わる周囲の変化に対しどうすればよいのかを自分で考えるように普段の練習から指導しています。優勝後もおごることなく練習に励むとともに、地域への恩返しとして学校近くの河川敷のごみ拾いをさせて頂いています。今後ともよき伝統とし、後輩へ伝えて行きたいと思えます。

さて、昨年の大会で優勝できた原因は何だったのかと思い起こしますと選手がそろっていた。そのときの調子良かった。ゴルフ場が生徒に合っていた等いろいろあるかも知れませんが、他校ほど遠方でもあり練習ラウンドが出来たわけでもなく、はっきりとしたものではありません。ただ、4人の選手が無欲で試合に臨めた事、お互いに信頼関係があり、お互いを補い合った事だと思います。重圧に耐えよく優勝できたものだと思います。今年の大会では初日17校中3位でしたが、最終日には9位となってしまいました。連覇の難しさがよくわかりました。頂上を目指しより一層精進するとともに、今後ゴルフをする子どもたちの希望となるようゴルフ界の発展に努めて行きたいと思えます。

最後になりましたがこの受賞にあたりご尽力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、マルセンスポーツ文化振興財団の今後ますますの発展と受賞に対するお礼とさせていただきます。



マルセンスポーツ賞

受賞にあたって

木村 禎宏

この度は、栄えあるマルセンスポーツ賞の名誉を拝受し、誠にありがとうございます。

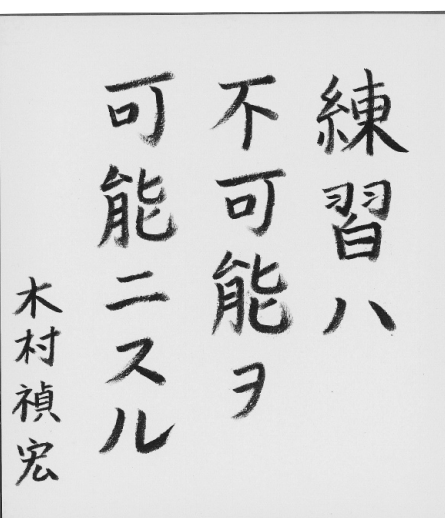
私は、イギリスで行われたワールドチームカップテニス大会に出場していたため授賞式に出席できませんでしたが、関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

2008年夏、北京で開催された夏季パラリンピックにおいて、私はシングルスでアジア選手として初のベスト8に入賞しました。テニスという競技においては欧米諸国と比べ、まだまだ日本は後進国ではありますが、この入賞はJWTA(日本車いすテニス協会)の監督・コーチ及びスタッフの方々の厚いサポート、そして何よりも普段の練習環境を与えてくださった岡山市の皆様のご支援の賜物であります。

北京大会の後に行われました国別対抗ワールドチームカップにおいて、私の所属した日本チームは残念ながら優勝を逃しました。若い選手のスキルアップを図り、チーム全体の技術・体力・精神力の強化を行うことが世界レベルで闘うことに必要だと痛感しました。

今後、私は2012年ロンドンパラリンピック大会での表彰台を目指すと同時に、日本チームがチームカップにおいて優勝できるように、日々トレーニングを積み重ねて行きます。

最後になりましたが、車いすテニスをご存知でない方が多いかと思いますが、今日の受賞を機に車いすテニスが一般の方々に少しでも認知され、障害者スポーツの発展の後押しになれば幸いです。





マルセンスポーツ賞

「受賞にあたって」

山陽女子高等学校 体操部監督 正本 良行

この度は、選手たちの日々の努力に対し、マルセンスポーツ賞に選考していただきました。選考してくださった関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。

山陽女子高等学校体操部は、平成20年度全国高校総体で46年ぶり2回目の団体優勝をすることができました。46年の間、前監督をはじめ多くの体操部員が伝統を引き継ぎ、常に全国を目指して努力してきた成果が2回目の優勝だと確信しています。今回の優勝メンバーも、先輩達を見ながら多くを学び、助けられながら努力し続けてきました。また、多くの指導者に指導を受けることで上達してきました。伝統の力と多くの指導者の方々の力で、表彰台の一番上に選手たちを立たしていただきました。心より感謝しています。

スポーツ・文化において、目標を持ち活動をしていくなかで、そのことを評価していただき賞をいただけるということは大変心強く、励みになります。財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団様の取り組みは、大変すばらしく、県民にとって大きな支えになります。今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。





マルセンスポーツ賞

『今後の抱負』

平林金属男子ソフトボールクラブ 監督 吉村 啓

この度は「マルセンスポーツ賞」を戴くことができ、クラブ関係者一同大変嬉しく思います。チームを代表して御礼と今後の抱負を述べたいと思います。

昨年、第37回日本男子ソフトボールリーグ・決勝トーナメントにおいて優勝することができたのは、単に選手の力だけではありません。多くのファンや理解ある地域の方々の応援、いつも温かく試合や練習へ送り出してくれる職場の皆さん、私達に関わる全ての人々のおかげだと感じています。

2009年のシーズンは不本意な成績に終わってしまいました。しかし、2008年西日本リーグ最終節の崖っぷちからの6連勝で決勝トーナメント進出への望みをつなぎ、決勝トーナメントにおいては3戦全て逆転サヨナラ勝ちを成し遂げ、《最後まで諦めない気持ち・努力した者が勝つ》という言葉を胸に、2010年のシーズンは、原点からの再スタートで、日本リーグ決勝トーナメント進出、そしてもう一度頂点獲りへチャレンジしたいと思います。

ソフトボール競技がオリンピック種目から外れるという残念な事態になっていますが、もう一度、今だからこそ、底辺からのソフトボール競技の拡大に努めていきたいと思います。思わしくない社会情勢が続く中、少しでも明るいニュースを提供すべく、他の競技と共に岡山県全体を盛り上げ、岡山県のスポーツ・文化の活性化の一翼を担うことが私達の使命ではないかと感じています。

今後も(財)マルセンスポーツ・文化振興財団様の益々の御発展を祈念し、御礼と抱負の言葉とさせていただきます。





マルセン文化賞

第6回マルセン文化賞を受賞して

岡山県重要無形民俗文化財 大島の傘踊り保存会 会長 岡田 伸志

このたびは、思いがけない受賞の栄に浴し、光栄に存じています。ありがとうございました。戴いた30万円は、早速傘の購入に使わせて頂きました。

傘踊りに一番大切な傘が古くなり、買い替えをどうするか検討の真っ最中に、受賞しましたので、早速購入の一部に充てさせて頂き、大変感謝しています。

大島の傘踊りは、貞亨3年(1686年)城主の百回忌法要が菩提寺で執り行われた際、参列していた大島地区の関係者が、雨で用意していた雨傘(番傘)を、刀に見立てて武芸の形を取り入れた踊りを奉納して、参列者に深い感銘を与えたという、由来に基づいており、傘が無くては踊りになりません。

保存会が使用している番傘は、一般には、次第に需要が少なくなっていくのと、作り手も高齢化して、今では岐阜でしか調達出来ない状況にあり、この度初めて岐阜の業者から購入しましたが、値段も高額になってきて、将来に不安を抱いています。(中国から既製品の安い傘は輸入されていますが、使えません)

全国には、傘踊りと名前のつく踊りは多くあると思いますが、我々が保存に努力している傘踊りのように、番傘を使う傘踊りは、全国的にも珍しい踊りでございます。

それだけに、この傘踊りを次の世代に引き継ぐことは、今の時代に生きる我々に課せられた責任だと考えています。

この度の受賞を支えにして「大島の傘踊り」保存のために、一生懸命努力しますので引き続き、ご指導ご支援下さいますよう、お願いいたします。

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団様の益々のご発展を、会員一同心からお祈りします。





マルセン文化賞

「美術作家の責任」

片山 康之

日本人が彫刻をする意味はどこにあるのか。これが、私が作家として創作活動が続けて行く上での根本的なテーマである。否定的な結論しか出せない時もあるが、それを活力に変えながら作品を制作し思考を巡らせるなかで、自分と社会との関わりが見えてきた部分も少しはある。

最近になって特に思うのは、現代の日本社会に生きる作家であるからこそ、同時代を生きる鑑賞者一人一人に向けた創作活動をしていかななくてはならないのではないか、ということである。たとえ作品は一つであっても、鑑賞する事で目には見えない表現そのものを鑑賞者一人一人の心に共有してもらえようような作品を創りたいと願っている。

特に写実をベースとした彫刻は、人間と同じ3次元の空間に存在するというリアルと、写実彫刻特有の表現としてのリアリティーが噛み合う事で、それが得られる可能性を持つものであるし、現代社会の鏡として「何か」を訴える力は充分にあると信じている。

最後に、芸術の国際的な相互交流が進めば進むほど、国々におけるその独自性の確立が望まれる。美術界においても国際的な展覧会が増えてきているように思うし、それぞれの国にとって文化の背景となる歴史観や民族観などを背負っているという意識を持つ事が美術作家一人一人の責任であるとさえ思える。



DATA

資料

事業の記録

1 表彰の記録

第5回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
20.7.29	スポーツ	大賞	天満屋女子陸上競技部	陸上競技
		賞	県立新見高等学校ソフトボール部 県立新見高等学校軟式野球部 福元 美穂 宮間 あや	ソフトボール競技 軟式野球競技 サッカー競技 GK サッカー競技 MF
	文 化	大賞	該当者なし	
		賞	井手 康人 小川 尊一 神代郷土民謡保存会 津山市立北陵中学校吹奏楽部 明誠学院高等学校書道部	美術 日本画 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 吹奏楽 書道

第4回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
19.7.24	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	麻生 薫 岡山県作陽高等学校サッカー部 岡山湯郷Belle 長田 京大 牧野 吉伸	ハンドボール競技 監督 サッカー競技 サッカー競技 新体操競技 監督 ウエイトリフティング競技 監督
	文 化	大賞	山口 松太	漆芸
		賞	多胡 昭彦 田丸 稔 宮尾 昌宏	天文家 美術 彫刻 工芸 陶芸

第3回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
18.7.21	スポーツ	大賞	高橋 大輔	スケート競技フィギュア
		賞	楢村 正明 古川 興幸 森政 芳寿	ソフトテニス競技 監督 レスリング競技 監督 陸上競技 監督
	文 化	大賞	あさの あつこ	文芸 児童文学
		賞	川島 基 難波 滋 福石神楽団	音楽 ピアニスト 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能
	特別賞		岡山県剣道連盟 岡山県山岳連盟 岡山シーガルズ 関西高等学校ボート部	剣道競技 山岳競技 バレーボール競技 ボート競技

第2回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
17.8.3	スポーツ	大賞	水鳥 寿思	体操競技
		賞	石本 直樹 諸見里 しのぶ 横山 純子	ベンチプレス競技 ゴルフ競技 陸上競技 監督
	文 化	大賞	小川 洋子	文芸 小説
		賞	石田 宗之 はやし田植え保存会 濱坂 渉	美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

第1回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
16.12.14	スポーツ	大賞	武富 豊	陸上競技 監督
		賞	土井 美智恵	水泳競技(マスターズ)
			藤原 佳市	体操競技 監督
			柳井 清志	ソフトボール競技 監督
	文 化	大賞	高橋 秀	現代美術
		賞	栗井春日歌舞伎保存会 岡山フィルハーモニック管弦楽団 松本 和将	無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 管弦楽 音楽 ピアニスト

2 助成の記録

第5回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
20.7.29	スポーツ	100万円	34件	10件	996,410円	県立総社南高等学校ダンス部保護者会 100万円 合 計 21件 2,996,410円 累 計 103件 12,794,550円
	文 化	100万円	45件	10件	1,000,000円	

第4回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
19.7.24	スポーツ	100万円	31件	10件	964,500円	合 計 21件 1,994,500円 累 計 82件 9,798,140円
	文 化	100万円	53件	11件	1,030,000円	

第3回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
18.7.21	スポーツ	100万円	36件	10件	970,000円	合 計 20件 1,962,000円 累 計 61件 7,803,640円
	文 化	100万円	27件	10件	992,000円	

第2回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
17.8.3	スポーツ	100万円	34件	10件	988,640円	晴れの国おかやま国体 100万円 合 計 21件 2,988,640円 累 計 41件 5,841,640円
	文 化	100万円	24件	10件	1,000,000円	

第1回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
16.12.14	スポーツ	100万円	31件	10件	1,000,000円	晴れの国おかやま国体 100万円 合 計 20件 2,853,000円
	文 化	100万円	15件	9件	853,000円	

3 イベントの記録(協賛を含む)

年度	区 分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
20	スポーツ	「第31回岡山県少年剣道練成大会」協賛	20.6.7	-	-	10万円
		「第1回倉敷国際少年野球大会」協賛	20.8.23~24	-	-	10万円
		「第27回山陽女子ロードレース大会」協賛	20.12.23	-	-	105万円
		「マルセン少年陸上競技教室」開催	21.3.8	-	255名	32万円
		「第24回全国高等学校新体操選抜大会」協賛	21.3.26~28	-	-	10万円
		「第25回全国高等学校体操選抜大会」協賛	21.3.28~29	-	-	10万円
	文 化	「第4回沙美アートフェスト」協賛	20.5.10	-	-	10万円
		「おかやま国際音楽祭2008」チケットプレゼント(成通グループ提供)	20.10.4	444	100	-
		「岡山学びフェスタ2008」「マルセンバレーンアート教室」の開催	20.11.9	-	220名	7.4万円
		「おかやま子ども民俗芸能大会」協賛	20.11.8	-	-	10万円
		岡山県文化連盟 「文化講演会」協賛	20.11.30/12.21	-	-	35万円
		「マルセン写真コンテスト及び写真展」の開催	21.2.25~3.2	270点	36点	30万円
19	スポーツ	「第30回岡山県少年剣道練成大会」協賛	19.6.9	-	-	10万円
		「第26回山陽女子ロードレース大会」協賛	19.12.23	-	-	105万円
		「第56回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	20.2.11	-	-	10万円
		「マルセン少年サッカー教室」開催～湯郷Belleの選手を招いて～岡山ドーム	20.3. 8	-	207名	43万円
	文 化	「第3回沙美アートフェスト」協賛	19.5.12	-	-	10万円
		くらしきウィーク 2007 in Kansas City 協賛	19.7.25~8.1	-	-	10万円
		岡山県文化連盟「文化講演会」協賛「書道」「美術」「シンポジウム」	19.9.9-15-23	-	-	35万円
		第19回全国生涯学習フェスティバル 「まなびピア岡山2007」 「生涯学習見本市」へ出展 桃太郎アリーナ	19.11.2~6	県総合グランド 入場者 17万2千人		48万円
18	スポーツ	「第25回山陽女子ロードレース大会」協賛	18.12.23	-	-	105万円
		「第55回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	19.2.11	-	-	10万円
	文 化	「ポスト国体・フラワーロード事業」協賛	-	-	-	10万円
		「第2回沙美アートフェスト」協賛	18.5.13	-	-	10万円
		「川島 基ピアノリサイタル」開催	18.11.3	431通	200名	約40万円
		コミュニティライブラリーの開設	18.8.4~19.2.16	-	-	-
17	スポーツ	岡山桃太郎アリーナ落成記念「オリンピックメダリスト体操競技演技会」協賛	17.6.5	-	-	21万円
		「第24回山陽女子ロードレース大会」協賛	17.12.23	-	-	105万円
		「第54回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	18.2.11	-	-	10万円
	文 化	松本和将「ベートーヴェン3大協奏曲の夕べ」チケットプレゼント (岡山シンフォニーホール)	17.4.30	-	100名	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館記念「新シルクロード展」チケットプレゼント	17.10.21~12.18	452件	100名	9万円
		「あそべる!おもちゃ展」 協賛 (岡山デジタルミュージアム)	18.2.17~22	-	-	10万円
16	スポーツ	「第23回山陽女子ロードレース大会」協賛	16.12.23	-	-	105万円
	文 化	岡山フィルハーモニック管弦楽団 第26回定期演奏会 チケットプレゼント	17.3.11	710件	100名	36万円

平成20年度 収支計算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:円)

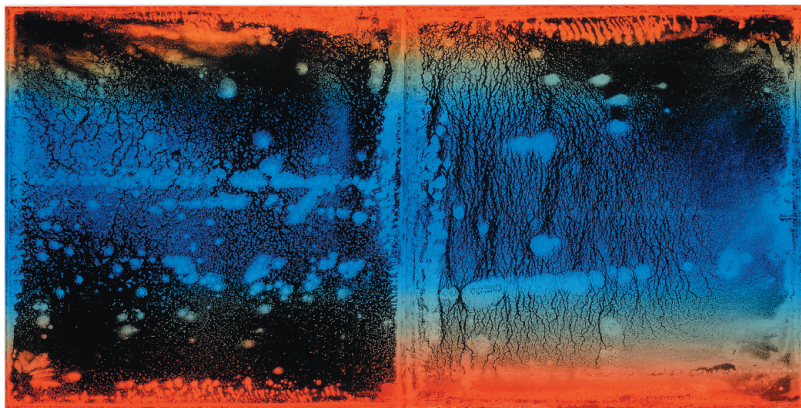
科 目	予算額	決算額
I 事業活動収支の部		
1 事業活動収入		
基本財産運用収入	100,000	400,000
寄付金収入	13,000,000	12,500,000
雑収入	0	2,043
繰入金収入	0	0
事業活動収入計	13,100,000	12,902,043
2 事業活動支出		
事業費支出	11,100,000	10,606,576
管理費支出	2,000,000	436,832
繰入金支出	0	0
事業活動支出計	13,100,000	11,043,408
事業活動収支差額	0	1,858,635
II 投資活動収支の部		
1 投資活動収入	0	0
2 投資活動支出	0	0
投資活動収支差額	0	0
III 財務活動収支の部		
1 財務活動収入	0	0
2 財務活動支出	0	0
財務活動収支差額	0	0
IV 予備費支出		
当期収支差額	0	1,858,635
前期繰越収支差額	0	7,943,002
次期繰越収支差額	0	9,801,637

貸借対照表

(平成21年3月31日 現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	3,720,669	2,342,151	1,378,518
未収金	17,662	17,131	531
仮払金	0	10,000	△ 10,000
立替金	11,628,149	6,268,202	5,359,947
流動資産合計	15,366,480	8,637,484	6,728,996
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
特定預金	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
特定資産合計	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
(3) その他固定資産			
固定資産合計	115,000,000	120,000,000	△ 5,000,000
資産合計	130,366,480	128,637,484	1,728,996
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	552,653	674,994	△ 122,341
預り金	12,190	19,488	△ 7,298
流動負債合計	564,843	694,482	△ 129,639
2 固 定 負 債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	564,843	694,482	△ 129,639
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	29,801,637	27,943,002	1,858,635
正味財産合計	129,801,637	127,943,002	1,858,635
負債及び正味財産合計	130,366,480	128,637,484	1,728,996



平成21年度 マルセン6号

発行日／平成22年3月

発行所／財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団

所在地／〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町1丁目2番4号

電 話／(086) 800-0077 ファックス／(086) 800-0055

URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

(本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)